



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年1月31日

上場会社名 SBテクノロジー株式会社

上場取引所 東

コード番号 4726 URL <https://www.softbanktech.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 阿多 親市

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員CFO (氏名) 岡崎 正明 TEL 03-6892-3063

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	47,839	△0.8	3,607	1.9	3,453	△1.0	7,166	239.9
2023年3月期第3四半期	48,231	1.3	3,541	△3.2	3,489	△3.7	2,108	△3.6

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 7,476百万円(224.8%) 2023年3月期第3四半期 2,301百万円(△33.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	360.41	359.52
2023年3月期第3四半期	105.32	104.36

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	48,729	31,389	58.6	1,434.04
2023年3月期	45,466	25,167	49.4	1,131.42

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 28,539百万円 2023年3月期 22,475百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	25.00	—	35.00	60.00
2024年3月期	—	30.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	40.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日(2024年1月31日)公表しました「通期業績予想の修正及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	67,000	△0.3	5,600	0.8	5,450	△0.9	8,300	137.3	417.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日(2024年1月31日)公表しました「通期業績予想の修正及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年3月期3Q	22,757,800株	2023年3月期	22,757,800株
2024年3月期3Q	2,856,067株	2023年3月期	2,892,930株
2024年3月期3Q	19,883,304株	2023年3月期3Q	20,019,152株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2024年1月31日（水）に機関投資家及びアナリスト向け決算説明会（オンライン配信）を開催いたします。決算補足説明資料はTDnetで開示するとともに、当社ホームページ（<https://www.softbanktech.co.jp/corp/ir/>）にも掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	10
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当期は、世界情勢に対する懸念や海外でのインフレ抑止としての利上げ影響による円安などによりエネルギー資源や物価の上昇が継続しましたが、国内では経済活動も活発化してきており緩やかながらも景気は持ち直しの動きが続きました。

そのような中、企業は事業変革に向けデジタル技術を用いたDX推進、働き方の変化に伴うクラウドや生成AIの利活用促進、サイバー攻撃に対応するためのセキュリティ対策の拡充といった取り組みを行ってきました。これにより国内企業におけるDX投資の需要は堅調に推移してきました。

特に、生成AIの一種であるChatGPTが注目を浴びる等、コスト削減や業務効率化、新たな働き方を創造するための最先端技術を活用した動きはさらに活発化しております。当社においても、社内利用やお客様との共同実証実験を通じて得られたノウハウを反映した回答精度を高めるコア技術により、さまざまなビジネス用途において業務効率化を目指していきます。

また、セキュリティ対策が脆弱な部分を狙ったサイバー犯罪は依然として増加傾向にあり、政府は2023年度中に業務委託先の企業に米政府基準のサイバーセキュリティ対策を義務付けるなど、自社のみならずサプライチェーン全体でのサイバーセキュリティ対策の必要性も顕在化しています。

当社を含めたICT関連企業は、DX推進とそれに伴うセキュリティ対策の支援を通じて、大きな社会の変化に対応することが求められています。

このような経営環境の中、ICTサービス事業は堅調に推移し、前年同期と比較して各区分の業績は以下のとおりとなりました。

#### ・通信

ソフトバンク㈱向けのベンダーマネジメント案件の減少や投資抑制影響により減収となったものの、システム開発の効率化やベンダーマネジメント案件の売上高構成比が下がったため利益率は改善しました。

#### ・エンタープライズ

注力顧客やそのグループ会社へのクラウド構築案件が増加したほか、自社サービスのマネージドセキュリティサービス (MSS) が順調に進捗したことにより増収増益となり利益率も改善しました。

#### ・公共

農林水産省が掲げるDX戦略案件の増加により増収増益となりました。また、自治体情報セキュリティクラウドなどの運用案件が増加したことにより売上総利益率も改善しました。

#### ・個人

ECサイト運営代行における㈱ノートライフロックとの契約変更の影響、及び当第3四半期よりフォントワークス㈱が連結から除外されたことにより、減収減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、以下のとおりとなりました。

なお、売上総利益は第3四半期連結累計期間として過去最高となりました。また、フォントワークス㈱の株式等譲渡の影響により親会社株主に帰属する四半期純利益も過去最高となりました。

(百万円)

	前年同期	当第3四半期	増減	増減率
売上高	48,231	47,839	△391	△0.8%
売上総利益	10,569	11,253	683	6.5%
販売費及び一般管理費	7,028	7,645	617	8.8%
営業利益	3,541	3,607	66	1.9%
経常利益	3,489	3,453	△35	△1.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,108	7,166	5,057	239.9%
EBITDA(注)	4,778	4,862	84	1.8%
1株当たり 四半期純利益	105.32円	360.41円	255.09円	242.2%

(注) EBITDA＝営業利益＋のれん償却費（販売費及び一般管理費）＋減価償却費

なお、当社の報告セグメントは「ICTサービス事業」の単一セグメントとしておりますが、「ICTサービス事業」を構成する各マーケットの内容及び業績については、P.5の「区分の説明」をご参照ください。

#### ＜第4次中期経営計画の進捗＞

当社グループは、2023年3月期～2025年3月期の3年間を対象期間とした第4次中期経営計画を定め、取り組みを進めています。

#### ①経営の基本方針

当社グループは、「情報革命で人々を幸せに～技術の力で、未来をつくる～」ことをミッションに掲げ、多様な働き方と挑める環境で先進技術と創造性を磨き、社会に新しい価値を提供し続ける企業を目指しております。そしてこの経営理念の下、「日本企業の競争力を高めるクラウドコンサル&サービスカンパニー」となることを長期ビジョンとして定めております。

また、当社グループは持続可能な社会の実現に向け、事業・企業活動を通じてさまざまな社会課題に取り組んでおり、サステナビリティ活動を推進するためのテーマとして6つのマテリアリティ（重要課題）を特定しました。

サステナビリティとマテリアリティの詳細については、当社ホームページをご参照ください。

<https://www.softbanktech.co.jp/corp/sustainability/>

当社グループは、ICTサービスの提供を通じて豊かな情報化社会の実現に貢献してまいります。

#### ②重点テーマ

第4次中期経営計画における重点テーマの進捗は以下のとおりです。

#### ＜3つの重点テーマ＞

- ・顧客のDXを支援するセキュリティ&運用サービスの提供（押し上げる力）
- ・顧客の変革を実現するデータを活用した共創型DXの推進（引き上げる力）
- ・DX人材の育成・創出のためのコンサルティング&IT教育（推進する力）

お客様の業務効率化やDX推進において生成AIの活用が多く場面検討されるようになってきました。一方、お客様よりセキュリティとプライバシーに関するリスク管理や生成AIの回答の正確性や利便性についての導入課題が多く寄せられていました。当社は、セキュアに生成AIを活用できる Azure OpenAI Service と連携するコア技術を開発し、社内利用やお客様との共同実証実験を実施してまいりました。そこで得られたノウハウを活用しセキュアな環境で手軽に生成AIを利用できるサービスを開発し、「dailyAI マイデータ活用プラン」をリリースしました。お客様のお手持ちのファイルから分析や要約を指示することが可能で、ファイル内のデータ分析、規約や仕様書等の誤字脱字チェック・修正、外国語への翻訳等、さまざまな用途に利用できます。ユーザー単位ではなく企業単位のトークン数に応じた従量課金制となっており、手軽に多くのユーザーに生成AIを利用いただくことが可能となっています。今後は社内のクラウド上にあるドキュメントに対して検索を行い、社内データに基づく回答を実現させる「dailyAI 社内データ検索プラン」の提供も予定しております。今後、手元データや社内データの分析と生成AIの融合により、業務効率化や生産性向上を支援する利便性の高いサービスの提供を目指してまいります。

また、当社はデータ活用の前提となるクラウド環境とそのセキュリティ対策が重要であると考えております。特にセキュリティ対策の重要性は近年ますます高まってきており、当社ではセキュリティ対策の設計/構築やその後の監視運用までワンストップでお客様へ提供しておりますが、クラウド活用などに伴うIT資産の増加や設定不備などを含む脆弱性の管理など、日々のリスクマネジメント強化をテーマに、「MSS for VRM (脆弱性管理)」や「クラウドパトロール」を開発し提供してまいりました。このようにセキュリティ事業へ注力してきた結果、(株)アイ・ティ・アールが発行した「ITR Market View : エンドポイント・セキュリティ対策型/情報漏洩対策型SOCサービス市場2023」において、「SIEM運用分析サービス/マネージドXDRサービス市場」及び「Microsoft 365運用監視サービス市場」の2分野で、2022年度ベンダー別売上金額シェア1位を獲得し、2年連続シェア1位となりました。同レポートによると、「SIEM運用分析サービス/マネージドXDRサービス市場」における当社の国内シェアは20.4%、「Microsoft 365運用監視サービス市場」における当社の国内シェアは37.8%で、2023年度も高いシェアを維持すると予測されており、今後もお客様の事業継続に貢献できるようセキュリティサービスの拡充を図ってまいります。

引き続き3つの重点テーマに注力しお客様のDX実現に向けて貢献することで、第4次中期経営計画を着実に実行してまいります。

### ③目標とする経営指標

当社グループは、2023年3月期～2025年3月期の第4次中期経営計画において、クラウド・セキュリティ&サービスを注力事業に設定し、事業の拡大と企業価値のさらなる向上を図ってまいります。第4次中期経営計画の最終年度である2025年3月期の経営指標として「営業利益71億円」「営業利益率9%台」「クラウド・セキュリティ&サービス売上高500億円超」を掲げ、取り組みを推進しています。

### ＜サステナビリティへの取り組み＞

ソフトバンクグループは「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、世界の人々が最も必要とするサービスやテクノロジーを提供する企業グループとなるために、デジタルの社会実装を推進することで、あらゆる社会課題の解決を目指しています。また、ソフトバンクグループは脱炭素社会の実現を目指し、グループ全体の事業活動に伴う温室効果ガス排出量を2030年度までに実質ゼロにする「2030年度カーボンニュートラル達成」をグループ目標として設定しております。当社においても、社会課題への取り組みを重要な経営課題と認識しており、2030年度カーボンニュートラル達成の実現に向けて、取り組みを推進してまいります。

環境への取り組みにおいては、「クラウド」「セキュリティ」の強みを活かすことが重要であると考えております。マテリアリティの「クラウドを活用した、地球環境への貢献」では、電気効率の高いデータセンターで提供されるクラウドサービスの活用を推進することで、温室効果ガスの排出削減への貢献に取り組めます。また、マテリアリティの「先進技術による、アクセシビリティ促進とデータ利活用推進」では、お客様のDX推進及び安全性の高いデータ利活用によって、温室効果ガス排出量、消費電力など環境関連データの可視化を通じて、温室効果ガス削減やエネルギー効率化の支援を行います。

当社は、「2030年度カーボンニュートラル達成」という目標の下、グループ全体で温室効果ガス排出量の削減に取り組む、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。そして、6つのマテリアリティ解決に向けてサステナビリティ経営を推進し、社会へ新たな価値を提供し続けることで、持続的成長を実現してまいります。

〈 区分の説明 〉

当社の報告セグメントは、「ICTサービス事業」の単一セグメントとしており、「ICTサービス事業」を構成する主要な区分の内容及び業績については、次のとおりです。

また、各区分の前年同期の金額は現在の計上方法に則して算出しております。

区分	主な内容	主な事業会社の名称
通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈 通信会社向け 〉</li> <li>・オンプレミス（プライベートクラウド含む）のシステム構築/運用保守</li> <li>・クラウドコンサルティング/移行支援/構築/運用</li> <li>・セキュリティ運用監視サービス 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SBテクノロジー(株)</li> <li>・(株)電縁</li> </ul>
エンタープライズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈 一般事業者向け 〉</li> <li>・クラウドコンサルティング/移行支援/構築/運用/IT教育サービス</li> <li>・AI・IoTソリューション</li> <li>・セキュリティコンサルティング/導入支援/運用監視サービス</li> <li>・電子認証ソリューション 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SBテクノロジー(株)</li> <li>・M-SOLUTIONS(株)</li> <li>・(株)環</li> <li>・サイバートラスト(株)</li> <li>・アイ・オーシステムインテグレーション(株)</li> </ul>
公共	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈 官公庁・自治体向け 〉</li> <li>・クラウド移行支援/構築/運用/IT教育サービス</li> <li>・AI・IoTソリューション</li> <li>・セキュリティコンサルティング/導入支援/運用監視サービス 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SBテクノロジー(株)</li> <li>・アソラテック(株)</li> <li>・リデン(株)</li> </ul>
個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ECサイト運営代行</li> <li>・フォントライセンスのEC販売 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SBテクノロジー(株)</li> <li>・フォントワークス(株)</li> </ul>

「個人」を構成しているフォントワークス(株)について、当社の保有する全株式を2023年9月1日付で譲渡しましたが、当連結会計年度の同社の実績は、第2四半期連結累計期間の末日までを計上しております。



(百万円)

		前年同期	当第3四半期	増減	増減率
通信	売上高	14,512	11,313	△3,199	△22.0%
	売上総利益	2,413	2,116	△296	△12.3%
	利益率	16.6%	18.7%	2.1ポイント	—
エンタープライズ	売上高	22,056	24,087	2,031	9.2%
	売上総利益	5,623	6,307	683	12.1%
	利益率	25.5%	26.2%	0.7ポイント	—
公共	売上高	8,745	10,187	1,441	16.5%
	売上総利益	721	1,385	664	92.0%
	利益率	8.2%	13.6%	5.4ポイント	—
個人	売上高	2,917	2,251	△665	△22.8%
	売上総利益	1,810	1,443	△367	△20.3%
	利益率	62.1%	64.1%	2.0ポイント	—
計	売上高	48,231	47,839	△391	△0.8%
	売上総利益	10,569	11,253	683	6.5%
	利益率	21.9%	23.5%	1.6ポイント	—

## (2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(百万円)

	前期末	当第3四半期末	増減
総資産	45,466	48,729	3,263
純資産	25,167	31,389	6,222
自己資本比率	49.4%	58.6%	9.2ポイント

## (資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末より3,263百万円増加して48,729百万円となりました。流動資産は、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したものの、現金及び預金の増加などにより、前連結会計年度末より3,346百万円増加しました。

固定資産は、投資その他の資産が増加したものの、無形固定資産、有形固定資産が減少し、前連結会計年度末より82百万円減少しました。

## (負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より2,959百万円減少して17,339百万円となりました。流動負債は、買掛金、賞与引当金の減少などにより、前連結会計年度末より2,477百万円減少しました。

固定負債は、長期借入金、契約負債の減少などにより、前連結会計年度末より481百万円減少しました。

## (純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、事業分離における移転利益6,663百万円を計上したことに伴う利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末より6,222百万円増加して31,389百万円となりました。



## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2023年7月19日に公表しました2024年3月期の連結業績予想を下記のとおり修正しております。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	68,000	5,900	5,750	8,200	410.37
今回修正予想(B)	67,000	5,600	5,450	8,300	417.44
増減額(B-A)	△1,000	△300	△300	100	—
増減率(%)	△1.5	△5.1	△5.2	1.2	—
(ご参考) 前期実績(2023年3月期)	67,227	5,557	5,499	3,497	175.03

(注) 1株当たり当期純利益につきまして、2023年7月19日の業績予想開示時点では前期末の期中平均株式数を用いて算出しておりましたが、直近の実績値に伴う開示をすべきとの判断となり、2023年7月27日の短信開示時点より同決算期内の期中平均株式数を用いて算出しております。

当期において、主に連結子会社であるサイバートラスト㈱による業績予想の修正の影響で、売上高・営業利益・経常利益が前回発表予想を下回る見通しとなりましたので、通期連結業績予想を修正いたします。一方、フロントワークス㈱の株式等譲渡の影響により、親会社株主に帰属する当期純利益については前回発表予想を上回る見通しとなりましたので、通期連結業績予想を上方修正いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,221	12,857
受取手形、売掛金及び契約資産	24,133	20,027
商品	131	122
その他	3,136	5,963
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	35,622	38,969
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	684	481
工具、器具及び備品（純額）	991	798
その他（純額）	5	50
有形固定資産合計	1,681	1,330
無形固定資産		
のれん	836	633
ソフトウェア	2,531	2,077
ソフトウェア仮勘定	476	695
顧客関連資産	189	39
その他	86	58
無形固定資産合計	4,120	3,504
投資その他の資産		
投資有価証券	667	804
繰延税金資産	1,297	805
その他	2,075	3,314
投資その他の資産合計	4,040	4,924
固定資産合計	9,842	9,759
繰延資産		
株式交付費	1	0
繰延資産合計	1	0
資産合計	45,466	48,729

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,020	4,614
1年内返済予定の長期借入金	309	289
リース債務	14	10
未払金	4,493	5,201
未払法人税等	1,372	732
契約負債	2,186	2,961
賞与引当金	1,784	683
役員賞与引当金	—	62
受注損失引当金	626	491
瑕疵補修引当金	39	—
その他	742	1,064
流動負債合計	18,590	16,112
固定負債		
長期借入金	489	182
リース債務	81	73
契約負債	670	592
退職給付に係る負債	60	4
資産除去債務	336	318
その他	69	55
固定負債合計	1,708	1,226
負債合計	20,298	17,339
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,270	1,270
資本剰余金	1,613	1,659
利益剰余金	22,182	28,056
自己株式	△2,600	△2,567
株主資本合計	22,466	28,419
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	112
為替換算調整勘定	5	7
その他の包括利益累計額合計	9	120
新株予約権	320	311
非支配株主持分	2,371	2,538
純資産合計	25,167	31,389
負債純資産合計	45,466	48,729

## (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	48,231	47,839
売上原価	37,661	36,586
売上総利益	10,569	11,253
販売費及び一般管理費	7,028	7,645
営業利益	3,541	3,607
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2	1
持分法による投資利益	3	7
雑収入	15	12
営業外収益合計	22	21
営業外費用		
支払利息	6	4
支払手数料	20	95
寄付金	10	10
為替差損	25	5
貸倒引当金繰入額	—	50
雑損失	12	9
営業外費用合計	74	175
経常利益	3,489	3,453
特別利益		
投資有価証券売却益	—	3
受取補償金	16	—
新株予約権戻入益	17	32
事業分離における移転利益	—	6,663
特別利益合計	34	6,698
特別損失		
労災解決金	—	70
のれん償却額	—	63
債権放棄損	—	20
特別損失合計	—	153
税金等調整前四半期純利益	3,523	9,999
法人税、住民税及び事業税	647	2,188
法人税等調整額	578	445
法人税等合計	1,226	2,634
四半期純利益	2,297	7,364
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,108	7,166
非支配株主に帰属する四半期純利益	188	198
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	109
為替換算調整勘定	2	2
その他の包括利益合計	4	111
四半期包括利益	2,301	7,476
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,112	7,277
非支配株主に係る四半期包括利益	189	199

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年7月19日付の取締役会決議によって、当社の連結子会社であるフォントワークス㈱について、当社の保有する全株式をMonotype㈱に譲渡すること、及びフォントワークス㈱の事業に係る無形固定資産をMonotype Imaging Inc. に譲渡することについて決議し、2023年9月1日に実行いたしました。

また、10月6日に当社の連結子会社である㈱インテグラル・ヴィジョン・グラフィックスについて、当社の保有する全株式を譲渡しました。これらにより、事業分離における移転利益6,663百万円を計上した結果、当第3四半期連結会計期間末の利益剰余金は、28,056百万円となっております。